

# ○平成24年産秋冬野菜の需給・価格の見通しについて

資料3-2

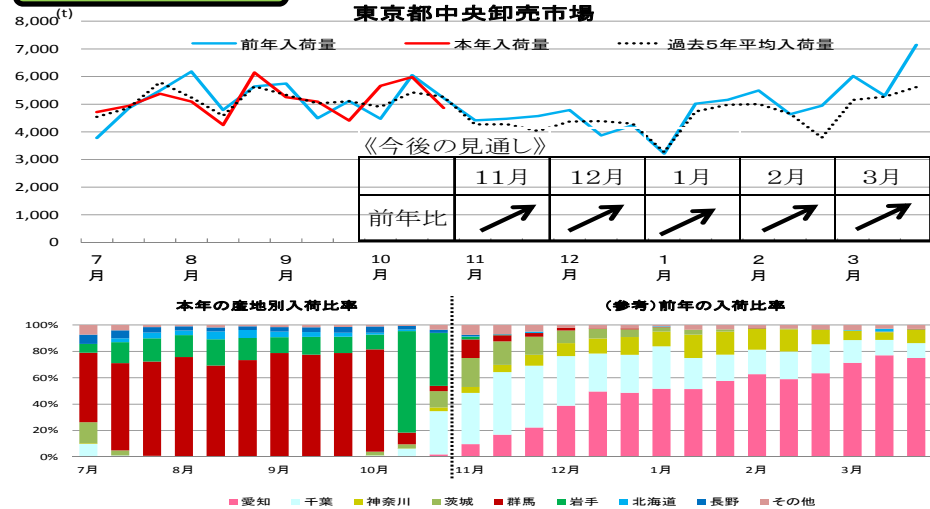
## 冬キャベツ(11~3月)

### 主産地の動向等

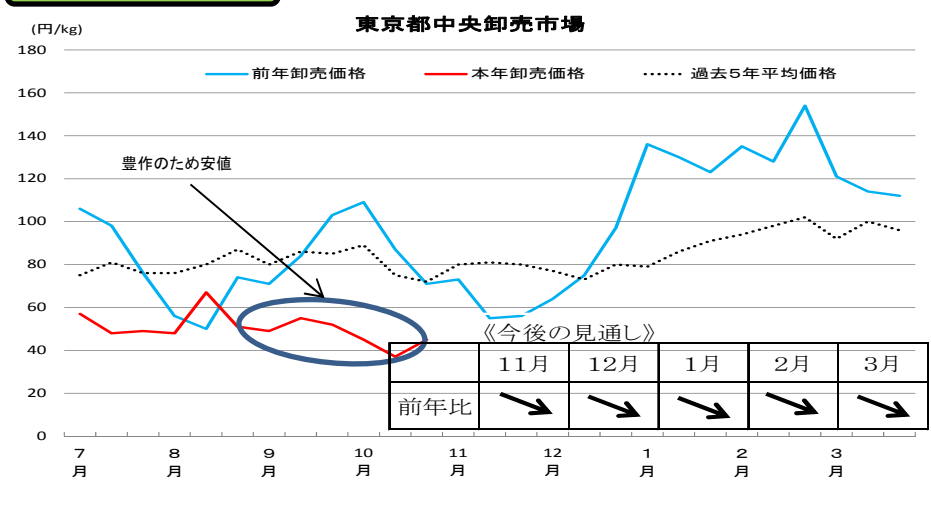
(主な産地:千葉、神奈川、愛知)

- 1 作付面積は、千葉、愛知は前年比100%、春キャベツから出荷時期を前倒しする計画の神奈川は同109%。  
生育状況は、千葉は、夏場の猛暑の影響から生育は1~2週間程度の遅れが見られたものの、9月以降は回復し、順調に生育。神奈川は、病害の発生もなく、生育は良好。愛知は、9月30日に台風17号が上陸したが、その後、天候に恵まれたことから、概ね順調に生育。  
出荷開始は、千葉は9月下旬、神奈川は10月上旬、愛知は10月中旬。
- 2 この先1か月の気象予報は、平均気温は平年並み、降水量は平年より少なく、日照時間は平年並みとなる見込み。

### 入荷量の推移等



### 価格の推移等



### 野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

- 1 供給見通し  
作付面積は、千葉及び愛知は前年並み、神奈川は前年をかなり上回る見込み。  
生育状況は、猛暑の影響から、一部生育に遅れがみられたものの、9月以降は、生育が回復し、作柄は良好。  
出荷量は、期間を通して、前年を上回る見込み。
- 2 需要・価格見通し  
期間を通して順調な出荷が見込まれることから、価格は、前年を下回って推移する見込み。  
なお、加工・業務用については、年内は価格が安いので、国産が主体となって利用されるものの、年明け以降は中国産及び韓国産が出回る見込み。

# 秋冬だいこん(10~3月)

## 主産地の動向等

(主な産地:千葉、神奈川、徳島)

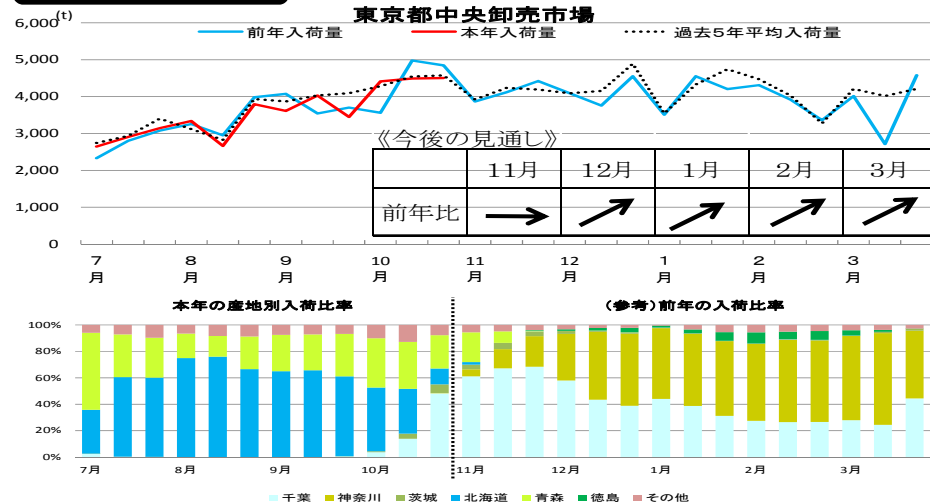
1 作付面積は、千葉、神奈川、徳島ともに前年比100%。

生育状況は、千葉は、8月~9月上旬にかけての干ばつの影響から播種作業が遅れたが、9月中旬以降は適度な降雨により、一部の産地を除き概ね生育は順調。神奈川は、台風等の影響もなく、生育は順調。徳島は、9月30日の台風17号の被害が一部見られるが、大きな被害はなく、順調。また、年明けの比率を増やしている。

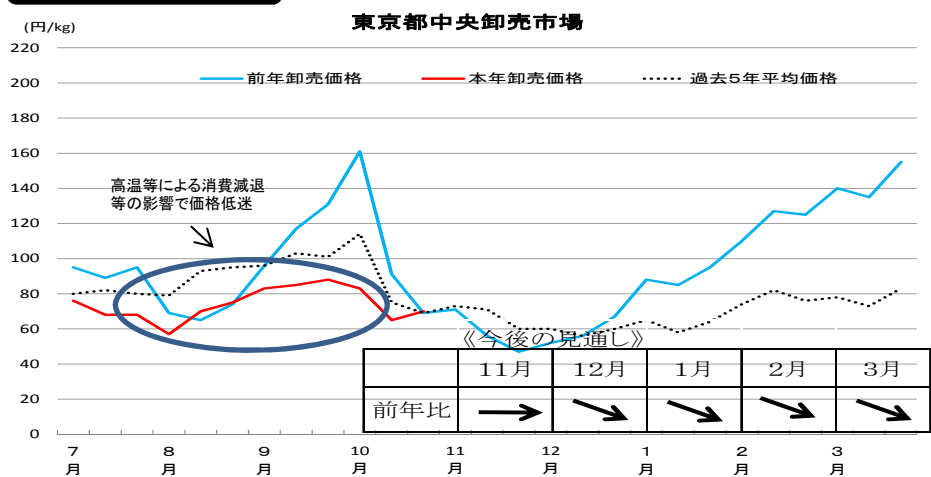
出荷開始は、千葉は10月中旬、神奈川、徳島は11月上旬。

2 この先1か月の気象予報は、平均気温は平年並み、降水量は平年より少なく、日照時間は平年並みとなる見込み。

## 入荷量の推移等



## 価格の推移等



## 野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

### 1 供給見通し

作付面積は、千葉、神奈川、徳島ともに前年並みの見込み。

生育状況は、一部産地に干ばつや台風の影響があったものの、大きな被害はなく、概ね良好。

出荷量は、11月は前年並み、12月以降は前年を上回る見込み。

### 2 需要・価格見通し

期間を通して概ね順調な出荷が見込まれることから、価格は、概ね前年を下回って推移する見込み。

気温が低いと肥大が進まず、歩留まりが悪くなることに加え、消費が伸びることから、価格が上昇する可能性もある。

だいこんは、カット売りの割合が増加している。また、加工・業務用においては、市場外流通のウエイトが高くなっている。

# たまねぎ(11~4月)

## 主産地の動向等

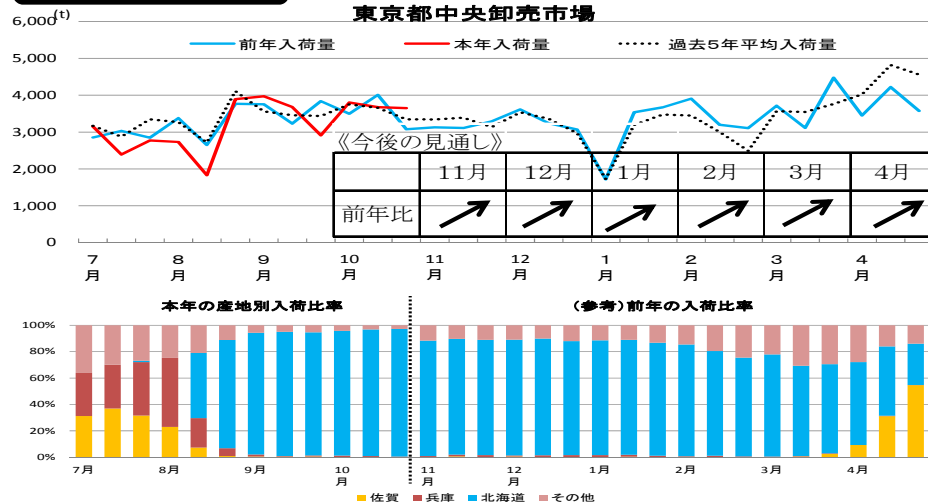
(主な産地:北海道)

1 作付面積は、北海道は前年比103%。

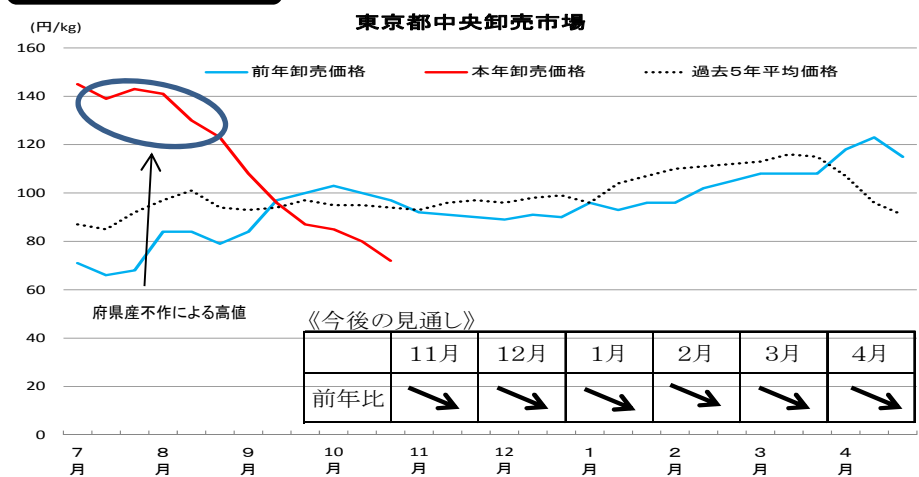
生育状況は、北海道は、極早生と早生は、4月以降天候に恵まれて順調な定植となったため、豊作傾向となっており、中生と晩生は、5月上旬の降雨で一部産地で定植作業が遅れたことから、ほぼ平年並み。

2 この先1か月の気象予報は、平均気温は平年並み、降水量は平年より少なく、日照時間は平年並みとなる見込み。

## 入荷量の推移等



## 価格の推移等



## 野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

1 供給見通し

作付面積は、北海道は、前年をやや上回る見込み。

生育状況は、5月上旬の降雨の影響から、一部、定植作業に遅れが見られたものの、生育は順調でほぼ平年並み。

出荷量は、期間を通して、前年を上回る見込み。

2 需要・価格見通し

期間を通して順調な出荷が見込まれることから、価格は前年を下回って推移する見込み。

加工・業務用においては、国産たまねぎの生育状況にかかわらず、輸入剥きたまねぎへの需要は根強い。

今年は、中国産が不作であったことから、皮付きたまねぎの内外価格差は小さくなっている。

# 冬にんじん(11~3月)

## 主産地の動向等

(主な産地:千葉、愛知、長崎)

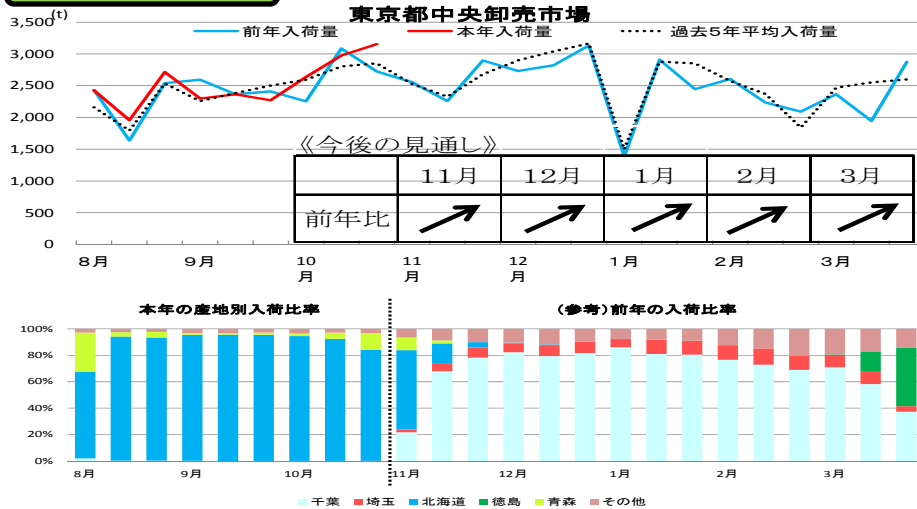
1 作付面積は、千葉は前年比100%、愛知は高齢化による作付減により同98%、長崎は同102%。

生育状況は、千葉は、8月の豪雨の影響で一部産地で発芽不良が散見されたが、その後、播き直しが行われ、概ね順調な生育。愛知は、9月30日の台風17号の影響は限定的で、生育は順調。長崎は、9月17日の台風16号の影響により、一部圃場で欠株の被害が散見されたものの、その後は、適度な降雨もあり順調に生育。

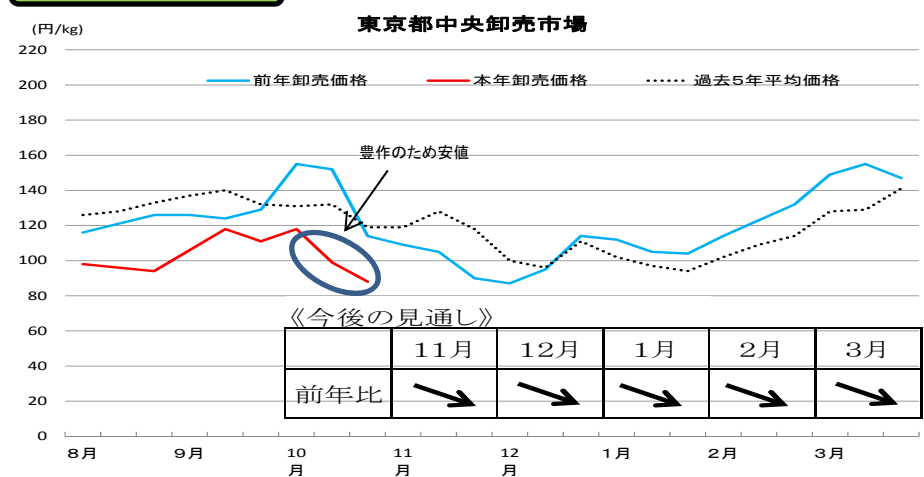
出荷開始は、千葉は10月下旬、長崎は11月上旬、愛知は11月中旬。

2 この先1か月の気象予報は、平均気温は平年並み、降水量は平年より少なく、日照時間は平年並みとなる見込み。

## 入荷量の推移等



## 価格の推移等



## 野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

### 1 供給見通し

作付面積は、千葉は前年並み、愛知はやや下回るものの、長崎はやや上回る見込み。

生育状況は、一部の地域で豪雨や台風の影響を受けたが、順調に生育。

出荷量は、期間を通して前年を上回る見込み。

### 2 需要・価格見通し

期間を通して順調な出荷が見込まれることから、価格は、前年を下回って推移する見込み。

家計消費はM~Lサイズ、加工・業務用は2L~3Lサイズが好まれることから、それぞれの需要に見合った生産を行う必要がある。

外食等では、国内価格が高くなると輸入を手当てするようになる。

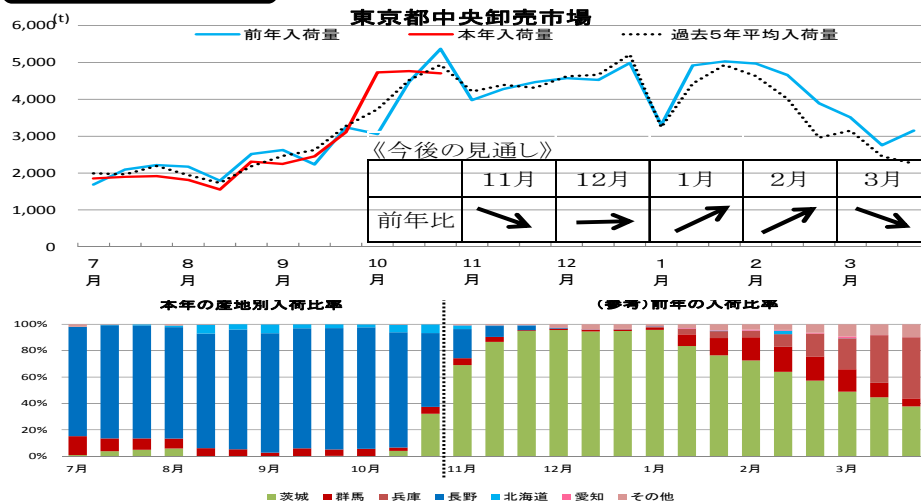
# 秋冬はくさい(10~3月)

## 主産地の動向等

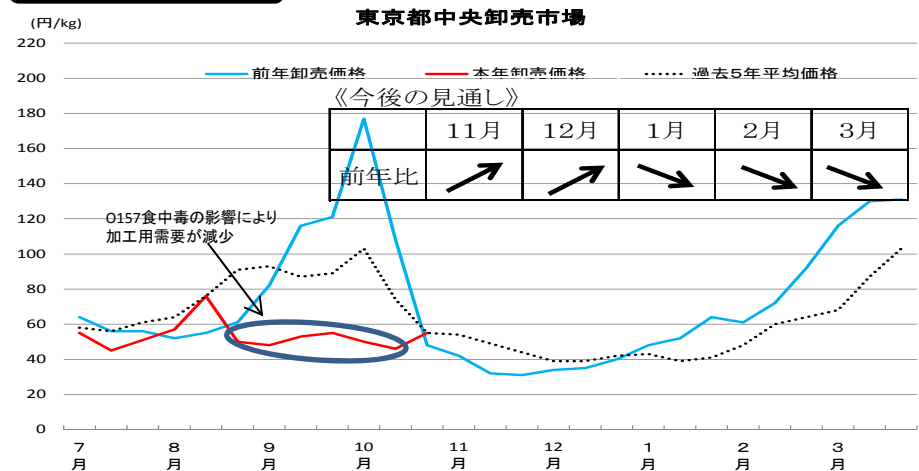
(主な産地: 茨城、愛知、兵庫)

- 1 作付面積は、茨城は前年比100%、愛知は高齢化による作付減により同96%、兵庫は作付意欲が高く同112%。  
生育状況は、茨城は、夏場の干ばつによる生育の遅れが懸念されていたが、その後の適度な降雨もあり、概ね回復。愛知は、9月30日の台風17号の影響は少なく、生育は順調。兵庫は、台風等の影響を受けた圃場もあるが、徐々に回復。  
出荷開始は、茨城、愛知は10月下旬、兵庫は11月下旬。
- 2 この先1か月の気象予報は、平均気温は平年並み、降水量は平年より少なく、日照時間は平年並みとなる見込み。

## 入荷量の推移等



## 価格の推移等



## 野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

- 1 供給見通し  
作付面積は、茨城は前年並み、愛知はやや下回るものの、兵庫はかなり上回る見込み。  
生育状況は、一部の産地で台風等の影響を受けたが、夏場の干ばつの影響もなく、順調に生育。  
出荷量は、茨城が年明けに作型を変更したことから、11月は前年を下回り、12月は前年並み、1~2月は前年を上回る見込み。一方、3月は兵庫の作型の変更により、前年を下回る見込み。ただし、11月の気温が低くなると生育が停滞し、2月以降の供給が下がる可能性がある。
- 2 需要・価格見通し  
11~12月にかけては、昨年は気温が高く安価であったことから、価格は、前年を上回ると見込まれるが、1月以降は、前年を下回る見込み。  
O-157による食中毒の影響により、漬物需要が減少しており、今後も尾を引く可能性がある。  
11月の気温が低くなると出荷量が減少し、2月以降の価格が上がる可能性がある。

# 冬レタス(11~3月)

## 主産地の動向等

(主な産地: 茨城、静岡、兵庫、香川)

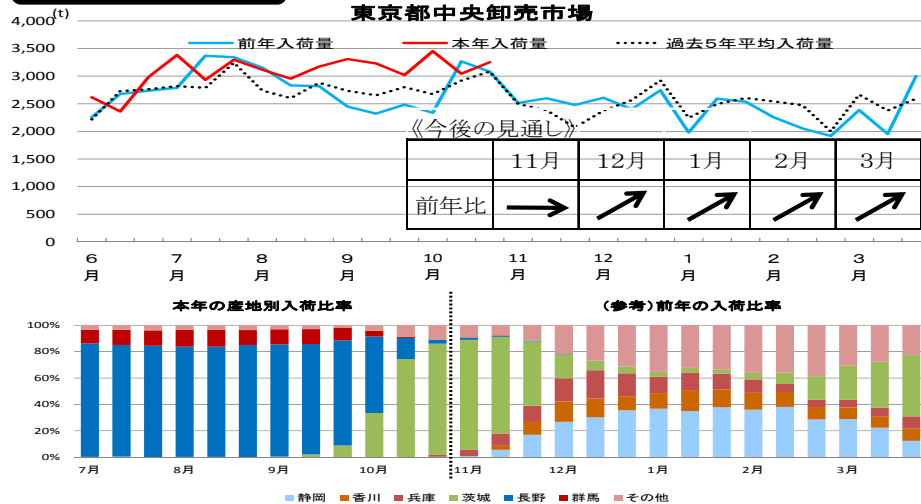
1 作付面積は、茨城は前年比102%、静岡は同100%、兵庫は同99%、香川は生産者の減少等により同96%。

生育状況は、茨城は、定植作業が遅れていたが、9月上旬以降の適度な降雨により生育が回復。静岡は、干ばつや高温の影響から多少の遅れが見られるが、生育は順調。兵庫は、出荷時期の早いものは台風の影響を受けたが、その後、徐々に回復。香川は、露地栽培が台風の影響を受けて、定植が進んでいないが、その後のトンネル栽培は順調。

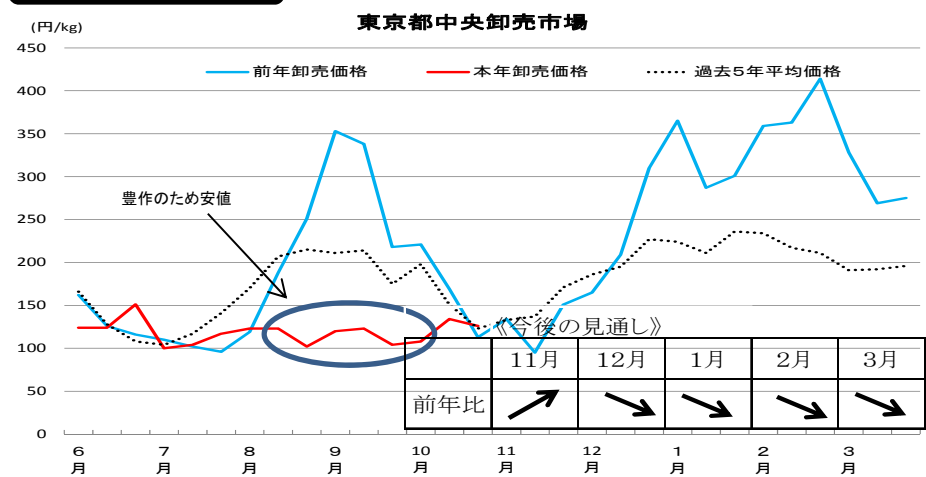
出荷開始は、茨城は9月下旬、香川は10月上旬。静岡、兵庫は10月中旬。

2 この先1か月の気象予報は、平均気温は平年並み、降水量は平年より少なく、日照時間は平年並みとなる見込み。

## 入荷量の推移等



## 価格の推移等



## 野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

### 1 供給見通し

作付面積は、茨城は前年をわずかに上回り、静岡は前年並み、兵庫はわずかに下回り、香川はやや下回る見込み。

生育状況は、一部の産地で干ばつや台風の影響を受けたが、その後は順調に生育。

出荷量は、期間を通して、概ね前年を上回る見込み。

### 2 需要・価格見通し

期間を通して概ね順調な出荷が見込まれることから、価格は、11月を除き前年を下回って推移する見込み。11月は、昨年は安値だったことから、前年を上回る見込み。なお、天候に大きく左右される品目であることから、天候次第で価格が変動する可能性がある。

九州の加工・業務用向け産地の作柄次第で、価格が上昇する可能性がある。

加工・業務用では、米国や台湾から一定量の輸入がある見込み。



## その他、秋冬野菜全体の消費の動向など

### ① 冬場の状況による影響(暖冬傾向になった場合の影響等)

- ・暖冬になると、野菜が採れすぎて価格が下がる恐れがある。
- ・暖冬となると、だいこんやはくさいといった商品が売れなくなる一方で、きゅうりやトマト等のサラダ商材が売れるようになる。鍋物的な素材が売れなくなるため、他のメニュー提案をしていきたい。

### ② カット野菜や冷凍野菜の動向

- ・カット野菜は、順調に伸びている。これまでは野菜の価格の高騰時に売れていたが、安くなっても売れている。消費者が利便性に着目して使うようになったのではないか。
- ・外食では、厨房の人数が減り、調理技術が低下してきており、カット野菜のニーズが高まっている。
- ・単なるカット野菜から、例えばシーザーサラダ用のカット野菜等、用途ごとにバリエーションを増やすことにより、需要がさらに伸びる可能性がある。
- ・冷凍野菜は、例えば九州の国産野菜の工場では、冷凍オクラの品質が非常に良く、また、冷凍ほうれんそうは内外価格差が、これまでの5倍から2倍へと小さくなっている。国産の冷凍野菜を国としても推進すべきである。

### ③ 主要6品目以外の野菜で、販売戦略として特に注目している品目の動向

- ・機能的な話題となったトマトは、そもそも売上がトップの商品である。これまではサラダ等生食での食べ方が中心であるが、トマト鍋等加熱調理での食べ方も登場しており、今後も期待している。
- ・こだわり野菜として、西洋野菜やミニ野菜に取り組む農家が増えており、直売所等において人気が出てきている。
- ・甘いピーマン等、今までと違った品目を取り扱ったところ、売り上げが伸びた。
- ・西日本で使われていた青ねぎが、関東でもうどんのチェーン店等で普及してきている。
- ・温野菜に期待しており、今後強化していきたい。

### ④ 野菜の需要喚起・消費拡大のアイデア等

- ・消費者や納品先に、一手間加えておいしく食べる工夫や、野菜の栄養等、消費者等が知らない情報を伝えることが重要であると考えている。
- ・野菜の消費を拡大するため、朝食で利用できるグリーンスムージーによるメニュー提案を行うことを検討していきたいが、効能をどうしたらうまく表示できるかが課題である。
- ・国産ブランドを使いたいと考えている人は多いので、直売所等を中心に、旬の野菜を食べるといった行動につながるような活動を進めたい。

### ⑤ 今後の産地のあり方

- ・加工・業務用需要は野菜生産を考える上で欠かせないものとなっており、専用の産地を育成する必要がある。
- ・家計消費用の野菜の生産を維持していくためには、適正生産量を十分に踏まえた生産体制を構築する必要がある。